



モニターだより

<みやぎ食の安全安心消費者モニターについて>

食と暮らしの安全推進課では、県民参加で食の安全安心確保対策を推進するため、消費者としての役割を自らの行動で積極的に果たす人材を育成することを目的に、「みやぎ食の安全安心消費者モニター」を随時募集・登録しております。研修会をはじめ、県が実施する諸事業にご参加いただき、食の安全安心に関する正しい知識を身に付けていただいております。

開催報告：「食品工場見学会」＆「生産者との交流会」

去る11月15日（木）に「食品工場見学会」と「生産者との交流会」を開催しました。消費者モニターの皆さん17名と、みやぎ食の安全安心推進会議から及川朋子委員が参加しました。

午前中は、大崎市松山にある仙台味噌醤油株式会社のわさび沢工場を訪問し、工場スタッフの皆さんに應對していただきました。製造部長の酒井さんから、仙台味噌の歴史や特長についてお話していただいたほか、製造ラインを見学しながら、味噌づくりの工程を丁寧に説明していただきました。モニターの皆さんは真剣なまなざしで耳を傾け、熱心に質問をされていました。

この他にも、お味噌汁の試食や味噌づくり体験など、趣向を凝らした研修メニューをご用意いただき、仙台味噌を五感で学ぶことができました。味噌づくり体験で作った「もろみ」は皆さんに大人気で、帰りのバスの中では、ジャンケン大会による争奪戦となりました。

午後は、栗原市金成の永田ユキオさんのほ場にお邪魔して、有機農業について学習しました。永田さんからは、無農薬栽培を貫く熱意やご苦労などについて、いろいろとお話していただきました。皆さんからの質問は途切れることなく、それぞれ永田さんにエールを贈っていらっしゃいました。ハウス内での収穫体験では、皆さん歓声を上げながら、小松菜を摘み取っていました。

参加されたモニターのお二方から、今回の感想をお寄せいただきましたので、ここで紹介します。

食の安全安心を消費者という立場で考えると、頭の引き出しの中味の少なさを痛感しまして実際の生産者や加工業者の現状を観て引き出しの中味を増やそうと思いました。仙台味噌わさび沢工場、生産者の永田ユキオ様の農場を見学、交流をさせていただき、ここまで食の安全を考えてくれているのかと驚き、頭が下がりました。食は文化と言いますが、こうゆう方々の努力で食の文化が受け継がれていくのだな～とあらためて思いました。消費者がそれに答えているかと言うと私の場合は地元のものを買う位で、正直値段と天秤に掛けたりする自分が恥ずかしくなりました。食の安全安心は消費者の正しい知識と意欲実践が大切だと、あらためて感じさせられました。皆様お世話になり、ありがとうございました。（手塚 様）

次項へ続く→

【食品工場見学会】



製造ラインの見学



味噌づくり体験

【生産者との交流会】



永田さんのお話



収穫体験

工場見学会ではいつもスーパーで見ている味噌がどのような流れで作られているかの説明と見学ができ、自分が思っていたよりシンプルな方法で作られているのだなあとと思い安心しました。実際に蒸した大豆をみんなでつぶして塩と麴を混ぜたりと体験もできたのでとてもためになりました。「宮城の名工」である酒井さんご自身にお話がきけたのも良かったです。生産者との交流会では永田さんご夫婦にお会いできました。永田さんの熱心な思いが伝わってきて、“あたり前に農薬を使用しない農業”の大変さ、続けて行く難しさがあっても頑張っていて欲しいととても思いました。生産者さんに実際に会ってみないと分からない現状が今回の事でよく分かり、消費者としてできることは何かを考えるきっかけをいただきました。一緒に同行した方々も意識の高い方ばかりでとても熱心に質問されていました。そのような場に入れて勉強になりましたし、宮城への愛が感じられた1日のように思います。また是非参加させて下さい。本当にありがとうございました。

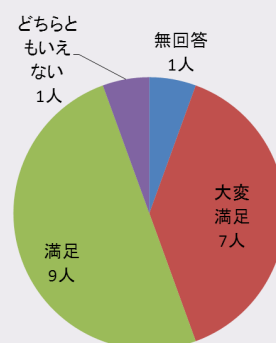
(小野 様)

ご協力いただきました仙台味噌醤油株式会社わさび沢工場の酒井さんはじめスタッフの皆さん、永田ユキオさんご夫妻、たいへんありがとうございました。

[参加者アンケートより]

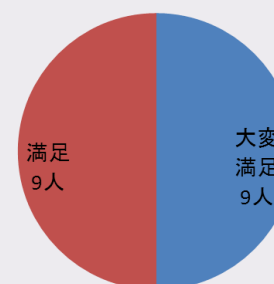
今回の「食品工場見学会」はいかがでしたか？

大変満足 7人
満足 9人
どちらともいえない 1人
不満 0人
大変不満 0人
無回答 1人



今回の「生産者との交流会」はいかがでしたか？

大変満足 9人
満足 9人
どちらともいえない 0人
不満 0人
大変不満 0人



開催報告：「みやぎまるごとフェスティバル2012」

【県庁1階ロビーの様子】



去る10月13日(土)・14日(日)の両日、県庁・勾当台公園などで「みやぎまるごとフェスティバル2012」が開催され、多くの人で賑わいました。

県庁前駐車場の特設テントでは、みやぎ食の安全安心取組宣言者である、農事組合法人舞ちゃんハウスと大坂屋菓子店(13日)、奥田建設株式会社とJA仙台椎茸生産組合(14日)がそれぞれ出店され、来場者はお目当ての品を買い求めていました。

また、県庁1階ロビーでは、食と暮らしの安全推進課職員が、みやぎ食の

安全安心県民総参加運動の取組みや、食品の放射性物質検査の状況について来場者に説明し、多くのご質問にお答えしました。

このほか、2日間で新たに6名の方々が、消費者モニターに登録されました。

【特設テントの様子】



参加募集：平成24年度消費者モニター研修会

来る平成25年1月19日の土曜日に、平成24年度消費者モニター研修会を開催します。今回は、「食と放射性物質」をテーマに、内閣府食品安全委員会と消費者庁から講師をお招きして、食品中の放射性物質による健康への影響などについて、わかりやすく解説していただきます。また、講演後、参加された皆様と講師との意見交換を行います。日ごろ疑問に思われていることなどにも講師が一つ一つお答えします。皆様のご応募をお待ちしております。

【テーマ】

「食と放射性物質」

【日時】

平成25年1月19日（土）
13：00～15：50



【スケジュール】（予定）

12：30～13：00	開場・受付
13：00～13：05	主催者挨拶等
13：05～13：50	内閣府食品安全委員会 講演
13：50～14：35	消費者庁講演
14：35～14：45	休憩
14：45～15：50	意見交換

【会場】

東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）
401会議室（仙台市青葉区国分町3-3-7）

【申し込み方法】

同封の申込書に必要事項をご記入の上、1月9日（水）までにご応募ください。（詳細については申込書をご覧ください。）

【募集人数】

80名程度
（応募者多数の場合は抽選となります。当選された方には1月15日（火）までに参加券をお送りします。選にもれた方には特にお知らせしませんので、あらかじめご了承ください。）

食の安全安心基礎講座

3回目の今回は、日常生活で受けている放射線について解説します。

単位：ベクレル/kg

わたしたちは、東京電力福島第一原子力発電所の事故などで放出された放射性物質のほかに、宇宙線や大地、大気中、食品など、もともと自然界にある放射性物質の影響（自然放射線）を日ごろから受けています。日本人1人当たりの年間線量は、平均約1.5ミリシーベルトで、そのうち約0.41ミリシーベルト（27.3%）は食品によるものです。

例えば、自然界にある元素で、健康を保つために必要なミネラルであるカリウムには、放射性物質であるカリウム40が0.012%含まれています。通常の食品に含まれるカリウム40の放射エネルギーは表のとおりです。

また、わたしたちは、自然放射線のほかに医療行為からも放射線を受けています。日本人1人当たりの年間線量は、平均約2.25ミリシーベルトで、自然放射線と合わせると約3.75ミリシーベルトになります。

ちなみに、わたしたちの体内にも常に放射性物質（カリウム40や炭素14など）が存在しており、日本人男性（体重約60kg）の場合、合計で約7,000ベクレルに達します。

干し昆布	2,000	牛肉	100
干しシイタケ	700	牛乳	50
ほうれん草	200	米	30
魚	100	食パン	30

（独）放射線医学総合研究所資料より

みやぎ食の安全安心取組宣言者紹介コーナー

このコーナーでは、「みやぎ食の安全安心取組宣言」を行っている生産者・事業者を編集長の私小笠原が訪ね、食の安全安心の確保に向けた取組みや、生産現場・お店の様子などを紹介していきます。

●みやぎ食の安全安心取組宣言事業とは？

みやぎ食の安全安心県民総参加運動の一環として、生産者・事業者が、食の安全安心に関する自主基準を設定・公開することにより、安全な食品を提供する責務を果たすとともに、消費者の安全な食品の選択に資することを目的とした事業です。

取組宣言を行っている生産者・事業者は、店頭等にこのマークを掲示していますので、皆さん、いろいろ探してみてくださいね。



第1回目の今回は、栗原市築館高田の「食品ストアすがわら」さんをご紹介します。



耕作さんと
お店の正面にて

食品ストアすがわらは、取組宣言の制度が始まった平成16年度に、承認第1号としてご登録いただきました。お店の1階では食料品やたばこ、お酒、日用雑貨などを販売しており、2階は喫茶店になっています。創業者である代表の菅原とき子さんは、ご主人の耕作さんと一緒に、お得意様へのお弁当の仕出しと、喫茶店の営業を行っています。仕出しは主に、レクリエーションや法事などの集まりにお届けしますが、

お弁当一つの注文でも、できる限り対応されていると伺いました。また、東日本大震災では、お店が相当なダメージを受けたにもかかわらず、救助活動などにあたる方々のために、お二人奮起して250食のお弁当と温かいお茶を提供されたそうです。



とき子さんと
耕作さん
2階喫茶店にて

とき子さんは、お弁当を「常に食べる人のことを思いながらくっています。」とおっしゃいます。安全・安心なものを届けるための衛生管理の徹底は、お二人の毎日の習慣になっているとのことと、これまでの点検表の綴りを何冊も拝見して、食の安全安心の確保にコツコツと取り組まれてきた歳月の重さを感じました。また、お弁当で季節が感じられるよう、とき子さんは、食材には旬のお野菜や果物を選ばれ、耕作さんは手作りの掛紙に、ご自身が撮影した風景写真を月替わりで載せられるなど、お二人の細やかで温かい心配りには、すっかり感心させられました。

ご夫婦仲睦まじく、日々坦々と仕事に取り組まれるお姿に接して、ほっこりとした気分でお店を後にしました。とき子さん、耕作さん、ご協力ありがとうございました。

食品ストアすがわら

〒987-2215

栗原市築館高田2-1-57（栗原市役所向かい）

電話：0228-22-2269 営業時間：6:30~19:00

編集後記

寒さがひとしお身にしみるところとなりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

時の流れは早いもので、今年ももうすぐ終わりですね。皆様にとって、2012年はどのような年でしたか。私にとってこの1年は、社会人となり、消費者モニター事業の担当を任せ、初めての経験でいっぱい充実した年になりました。来年も皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。（小笠原）

発行：宮城県環境生活部食と暮らしの安全推進課
〒980-8570

宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

電話：022-211-2643

FAX：022-211-2698

Eメール：syokua@pref.miyagi.jp

ホームページ：

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/shoku-k/>

